

第8期第1回府中市美術館運営協議会報告書

- 1 日 時 平成26年11月30日(日) 午後2時～4時15分
- 2 場 所 府中市美術館会議室
- 3 出席者 委員(順不同・敬称略)
薩摩・谷矢・中村・西郷・米谷・隠岐・吉田・清水・金津・佐藤
(欠席 大杉・堀江)
事務局
井出館長・山村副館長・堀管理係長・志賀学芸係長
武居教育普及担当主査・会津主任

4 傍聴者 なし

5 内 容

- (1) 委嘱状伝達
- (2) 府中市美術館館長挨拶
- (3) 事務局職員紹介
- (4) 委員自己紹介
- (5) 正副会長選出
委員互選の結果全員一致で、会長 薩摩雅登、副会長 谷矢哲夫と決定した。
- (6) 第8期府中市美術館運営協議会への諮問について
テーマ
「新しい時代の美術館運営について」
- (7) 資料説明
山村副館長が資料にそって説明

資料についての質疑応答

- Q 歳入の25年度決算で、使用料が100万円も低いのはなぜか。
- A 市民ギャラリーの使用率が悪かったため、前年まで利用していた個人や団体の利用がなかったため減となった。
- Q 美術品購入費がずっとないが、市の今の財政として美術品の購入は難しいということか。
- A 開館以来、年間2,000～5,000万円の範囲で基金を使って作品を購入してきて、今までに合わせて11～12億円になる。
基金は競艇事業が景気のよい時に積み立てていた市民活動推進基金というも

のから美術品収集費を支出していたが、平成 22 年度に購入したのを最後に基金が底をつき、予算がつかなくなった。
景気がよくなれば購入したいと思っている。

「新しい時代の美術館運営」について資料 4（3）課題の説明

以下、□は各委員の発言、■は事務局

□PRは1番大事だと考える。いかに視聴率を上げるかという作り方と、それをどう広報して皆に知らせるかということから考えると、小山田展の作品展示は寂しい。内容はおもしろいが、それが伝わってこない。小山田展をやっているということを街なかで知ることができない。

チャリティー広報の新聞社に2～3行でいいから定期的に掲載してもらおうようお願いするのもよいと思う。京王線に貼って情報を知らせてもよいと思う。市長の家の門にこのポスターが貼ってあるが、暗くて寂しい。やればよい、出せばよいのではなく、効果的なPRをしてもらいたい。

PRのやりすぎということはないと思う。

□日本の国公立美術館は広報宣伝が下手である。

お金がかかるので、京王線の車内広告にしてもそうだが、同じお金を出すのなら、どのタイミングで出したらいいかと考える。

□いかにお金をかけないで、効果があるものは何かと考えると、映像を流すのは無料なので、映像を作ってJ:COMやMXに映像作品を持ち込んで流してもらうようお願いをしてはどうか。

□美術館で何をやっているか興味があれば知ろうとするが、そうでないとなかなか市民には伝わらない。病院で待っている時、壁にポスターが貼ってあると市民にもっと知ってもらえると思う。

□銀行でもTVが流れている。市によっては議会の様子が流されているところがあると思うが、そこに今やっている展覧会の作品を何枚かスライドで配信するのもよいのではないかと思う。

今回の展覧会のこの作家は力があるし、色もとても美しい。

普通の人には深刻なテーマは関係なく色がきれいとか単純なことで絵を見ると、次第に「おどろおどろしい」ものが見えてくる。それがこの作家の持ち味であって、そういう形のものが、サーと出てくるとこの作家は誰なのだろうといった引き付け方ができるのではないか。

キリスト教的なテーマというところの絵（小山田展のちらし）になってしまうのだろうが、最初から見る気がなくなる人もいると思う。

とても美しい絵があったが、一般受けする、そういったビジュアルで選択した作品の絵はがきがあれば買おうという気が起こる。

なかなかそういったものが絵はがきにはならないのは残念である。

そういった点をもう少し考えてはどうか。

□絵はがきは誰が選定しているのか。

■担当者です。

色の再現については、しばしばご指摘いただいているところです。

著作権の問題があり、私たちがよいと選択したものであっても、なかなか許可がおりない。許可がおりてもギャランティーの問題がでてしまう。

2点目は、作品のもともとの画像だが、作品が来たら撮影すればよいのだろうが、展覧会前の準備となると、作品によっては十数年前のポジから大きなポスターにしたり、図録に使ったりということになる。

また、所蔵家からは余計な撮影はしないで欲しいと、なかなか許可が出ないこともある。

決まった枚数のセットの中で所蔵家とフィルムの問題と、担当としてこれが重要という思いと、この作品を理解して日常使って欲しいという思いはあるが、絵はがきとして売っているのだから、絵はがきとして皆が使いたくなるものを作っていきたいと思う。

□P 連でミレー展を鑑賞させてもらったが、その際館長の話を聞いて、皆とてもよかったと喜んでいて。

美術に対する掘り起こしとしては、保護者の存在が大事だと思う。美術館の位置づけにも関わってくるかと思う。

広報ではなくて、「教育委員会だより」に載ると違った目で見られるのではないか。教育委員会と美術館の係わりの中で、PR の方法として直接手元に届けるという方法がとれるとよいのではないか。現状そういったものがあるとなれば、もっと工夫の余地があるのではないか。

ポスターも大きいとインパクトがある。吉祥寺駅の大型ポスターはなかなかよい。市内でも大きな掲示ができるスペースがあるとよい。

□資料6で企画展の入館者数が出ているが、美術展ごとにどのような傾向が見られるのかといった資料がいただけたらと思う。

海外もので企画展らしく展示するものと、江戸絵画は毎年取り上げているし、同時に日本の近代絵画、収蔵作品の展示等にも工夫がされている。

収蔵作品をいろいろ違った枠組みの中で、何度もいろいろな形で見せる。今回の「ガリバー」展で思ったが、何回か見た作品をもう一度並び替えることで、違った見方ができる。学芸員が工夫していると思う。

そういった中で来館者が、どう評価をしているかのアンケートとか入館者数とかを、次の内容に反映させていく必要があると思う。

□次回の協議会で展覧会ごとの資料をいただけたらと思います。

□子どもを連れて展覧会に行くようにしていたが、どの子も1回は作品にさわって、学芸員に注意を受けたことがあったが、「大丈夫だよ」と言ってもらい、やってはいけないことをやさしく教えてくれた。

そのお陰で次からは、展覧会が楽しかったとか、作品のよかったところや、おかしなことを話してくれ、絵に対していい反応をしていた。

しかし大きくなってからはなかなか美術館には行けない。運動会とかの振替休

日の月曜日が、どこの館も休館日なことが残念。

親の立場から言うと、「この人誰」というのがあって、美術教育の問題もあると思うが、どうしても印象派とか有名な人は分かるが、近、現代の人はよく分からないというのが現状だが、説明を聞いて鑑賞の仕方が分かると深く見ることができると思う。

去年は家庭教育学級で見に来ていたようだが、毎年どの PTA でも家庭教育学級の企画や講師の件等含めて苦慮しているので、ぜひ美術館を PR して、美術館に足を運んでもらってはどうか。または可能であれば、出張美術館ではないが、学校に来て講演をすれば、各家庭に PR ができるのではないかと。

親に見たい気持ちがあっても小さい子どもを連れていくのはどんなものかなとか、行っても難しくて分からないのではないかとという思いがあって、敷居が高いと感じることがあるので、もう少しオープンすれば、このようなよい施設を利用したい人が足を運ぶと思う。

□府中市美術館の企画展は質が高いと思う。

常設展は、企画展に合わせて展示替えをしているのか。

■はい、そうです。

□企画展を見に行った際に常設展は見るが、牛島展はあまり行かない。牛島記念館で何か新しいことをやってはどうか。

□7期の答申書に基づいて、すでに美術館で取り組んでいることがあるのは素晴らしいことだと思う。ここから今回の課題が出されたのだと思うが、どれも正面から向かい合って努力されていると思う。

「わんこ募金」という仕組みを作って、市民が小さな額のお金を出し合って美術館に作品を寄贈する活動をしている。美術館という建物があるのに作品購入費用がないのは寂しい。作品の購入は美術館にとっては大事なことであるので、何とかしてほしい。

□作品の購入については、いろいろな事情があるとは思いますが、ぜひ少しずつでも購入を進めて欲しい。

年間を通して美術館に来ているが、見に来る人の世代や季節、行事を考えて企画されていて、とてもよいと思う。

ミレー展は、いつも来ている人とは層が違っていた。いつもは私語が多かったが、少なかった。やはり日本人の好きなジャンルなのだと感じた。

小山田展で、「ライティングを少し落としているところと、小山田が変わっていくところで明るくなっている。効果的でよかった」という声を聞いた。

最近作品を、守るためにライトを落とすところが多くなっているが、暗いところで物を見ることが苦手になっている人も増えているので、小山田展の演出は効果的だったと思う。これからも、見る人を引き込んでいく演出をしてほしい。

□よい内容の展覧会をやっていると思うが、どのように PR をしたらいいのか、人に来てもらうにはどうしたらいいのか、意見がいろいろ出されたが、PR をすれば少しずつでも来てもらえると思う。多くの人にきてもらうためには、それなりの努力が必要だと思う。各美術誌や各地域誌にお願いをする。たとえ5

行でもよいので、電話するなど掲載を依頼する。府中市美術館はなかなかよい
展覧会をやっているので、地道に努力して PR して欲しい。

□ひと昔前、広報・PR といえばポスター、ちらし、DM という媒体しかなかったが、時代が変わってさまざまな媒体が出てきている。それをどう有効に活用
するか今後の議題にしていきたいと思う。

美術館というところは、美術品と人とお金。これをどうやっていくかというところ
で、広報宣伝費はどこでも少ないが、それをいかに捻出するか、そしていかに人につないでいくかというところで、ここのところはまだまだ研究、開発
の余地があると思っている。

府中市美術館は公立の美術館としては、多彩な活動をしていると思う。展覧会
の内容もなかなか面白い。場所についても決して交通の便がよいとはいえない
が、これだけの存在感を示しているということで、まだまだいろいろと可能性
があると思うので、そのあたりを私たちが考えていかななくてはいけないと思う。
ここに美術館からの指針があるが、それに従って答申書を書かなければなら
ないというものではないが、おおむねそれに従っていきたいと思う。

■本日は、どうもありがとうございました。